名古屋市立大学
NAGOYA CITY UNIVERSITY

愛知県で生活する外国人の保健医療アクセス
(2021-2023年度版)

日本は、すべての人びとが基礎的な保健医療サービスを必要な時に享受できる状態、「ユニバーサルヘルスカバレッジ（UHC）」を世界に先駆けて達成した国として知られています。

その日本で生活する外国の人びとが、どのくらい健康資源（情報やサービスなど）へアクセスできているのか、アクセスできない人はどのような人びとなのかを把握し、必要な対策を講じていく必要があるとの問題意識のもと、私たちは2017年度から「愛知県で生活する外国人の保健医療アクセス」研究を継続しております。

調査にご協力いただいたみなさまに成果や現在進行中の活動などをご報告いたしたく、小冊子を適時作成しており、今回で３回目です。本冊子は2021～2023年度の報告となっております。

研究成果を対策につなげていくために、引き続きご助言、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

名古屋市立大学大学院看護学研究科
国際保健看護学（樋口研究室）
2024年4月

無料健康相談会で約3割の人が受診をすすめられている

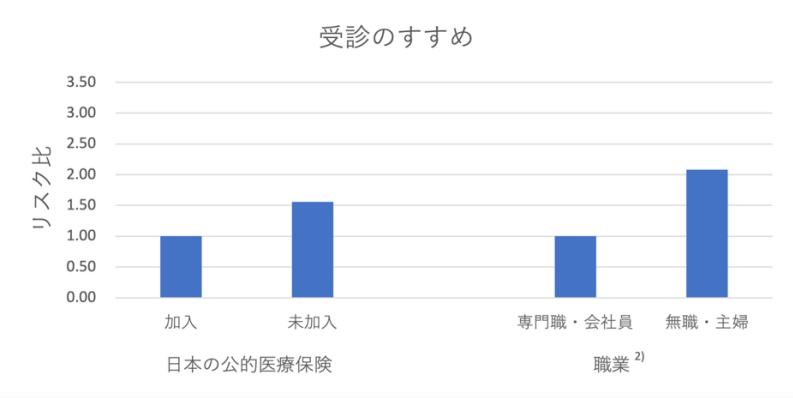
保険未加入者、無職の人、主婦はリスクグループ、学生も要支援

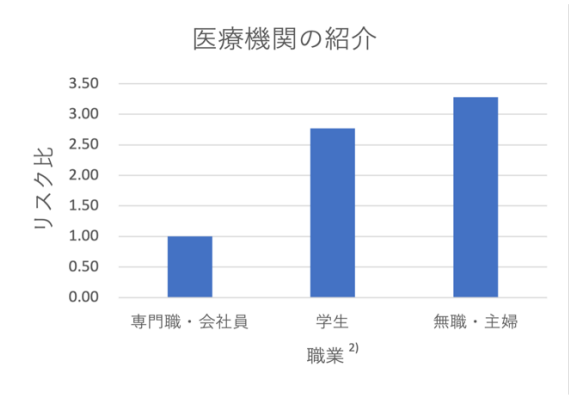
NGO が実施する外国人向け無料健康相談会で、受診のすすめを受けたり、医療機関を紹介されたりするのは、日常生活で受診しにくい状況にあることが予想されます。そこで、愛知県内で毎月無料健康相談会を行なっている NGO の活動データから、2012-16 年の 608 人分を使わせていただき、どのような人が受診をすすめられたり、医療機関を紹介されたりしているのかを統計的に調べました。

全対象者中、日本の公的健康保険への加入者は 81.7%でした。受診をすすめられた人は 27.5%、医療機関を紹介された人は 11.8%でした。保険未加入の人、無職の人・主婦は受診をすすめられるリスクが高くなっていました。紹介されるケースは受診必要度がより大きいと考えられますが、保険加入状況との関連は認めず、職業と関連しており、無職の人・主婦、学生でリスクが高くなっていました。

2 割の外国人住民が健康保険に未加入だったり、3 割の人が無料健康相談会まで受診を控えているのであれば、国民皆保険を達成しているとは言い切れません。今回の調査では、保健の未加入者や特定の職業の人たちにとっては日常生活の中で保健医療へのバリアがあり、無料健康相談会まで受診を控えている可能性が示唆されました。外国人住民と言っても多様性は年々増しています。特に支援の必要な人びとは誰なのかを理解し、根拠に基づいた支援をすることが求められていると考えます。

参加者特性別の「受診のすすめ」と「医療機関の紹介」を受けるリスク比 [1)]





1) 保険加入者、専門職・会社員が「受診のすすめ」「医療機関の紹介」を受けた割合を 1 とした場合、他のグループでの割合が何倍あるかどうかを示した。
2) 職業は 6 グループに分類した中で、有意な関連を認めたもののみ提示した。

謝辞：データを使用させて下さった NPO 法人外国人医療センター（MICA）に感謝申し上げます。

★ 第 1 回フォーラムと 2020 年 6 月版小冊子でご報告した内容ですが、論文として発表されましたので再掲しました。

Higuchi M, Endo M, Yoshino A. Factors associated with access to health care among foreign residents living in Aichi Prefecture, Japan: secondary data analysis. International Journal for Equity in Health. 2021;20:135.

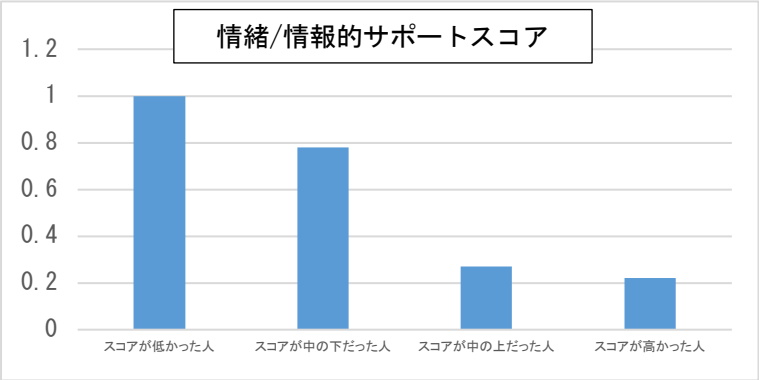
お問合せ先：名古屋市立大学看護学研究科 国際保健看護学 ncugch1@med.nagoya-cu.ac.jp

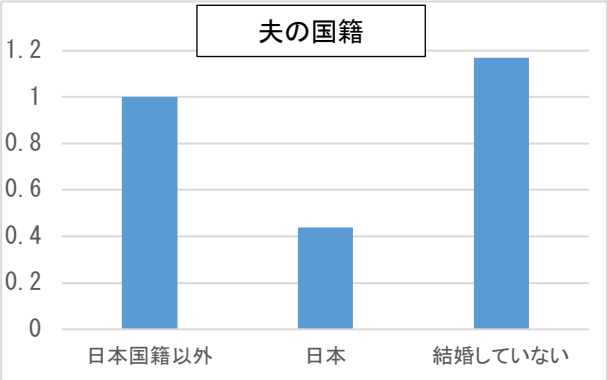
サポートがある女性ほど保健医療アクセスバリアが低い

～情緒/情報的サポートと夫のサポートが特に大切～

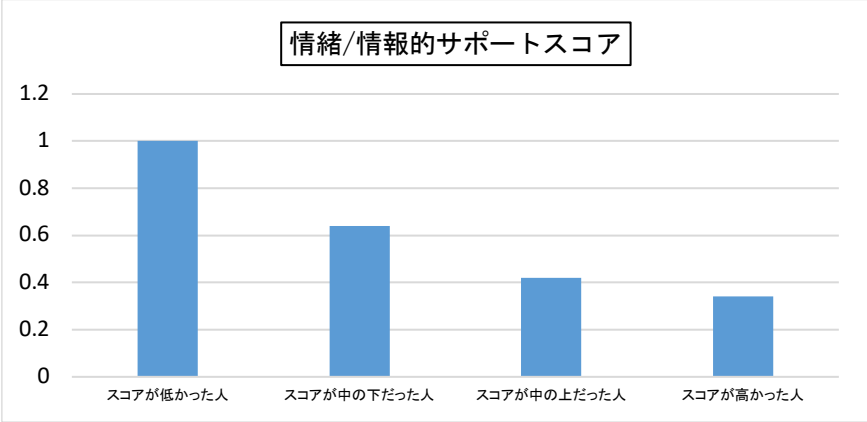
本研究では、保健医療アクセスに関する要因について、20 歳以上の愛知県で生活するフィリピン人女性 342 名を対象に調べました。保健医療アクセスの指標として、「かかりつけ医を持っているかどうか」と「過去 12 ヶ月間に受診を控えた経験があるかどうか」を尋ねました。その結果、「かかりつけ医を持っているかどうか」については、「情緒/情報的サポート」のスコアが高い人ほど、もしくは「日本人の夫」を持っている人のほうが、「かかりつけ医を持っていない割合」が低いということがわかりました。「日本人の夫」については、日本語のサポートだけでなく、日本の保健医療システムの理解に対してもサポートしているのではないか考えます。「過去 12 ヶ月間に受診を控えた経験があるかどうか」については、「情緒/情報的サポート」のスコアが高い人は、「情緒/情報的サポート」のスコアが低い人よりも明らかに受診を控えた経験が少ないということが分かりました。これらのことから、サポートが少なく、日本人の夫を持たないフィリピン人女性に対して、医療通訳システムや医療情報ネットなど、今あるサポート源を紹介し、日本の保健医療システムについての情報を提供することで、彼女たちの保健医療アクセスバリアを低くし、健康を維持できる可能性を示唆しました。

＜かかりつけ医なし＞





＜受診を控えた経験あり＞



★ 第 1 回フォーラムと 2020 年 6 月版小冊子でご報告した内容ですが、論文として発表されましたので再掲しました。

Yoshino A, Salonga R, and Higuchi M. Associations between social support and access to healthcare among Filipino women living in Japan. Nagoya Journal of Medical Science. 2021; 83 (3): 551-565.

お問合せ先：名古屋市立大学看護学研究科 国際保健看護学 ncugch1@med.nagoya-cu.ac.jp

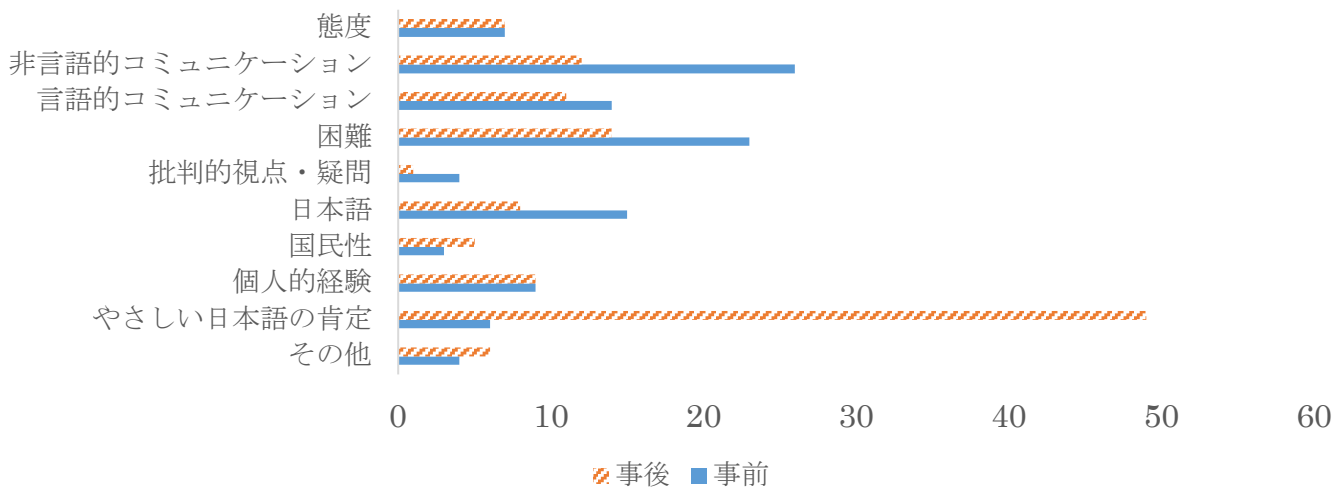
看護学生を対象としたやさしい日本語の教育

日本での生活において、日本語を母語としない人は「言葉の壁」のせいで病院へ行きづらくなることがあると言われています。多くの看護学生は将来の医療従事者となりますが、現在の看護教育において医療従事者側から言葉の壁を低くするための内容は必須となっていません。しかし日本で一定数暮らしている日本語を母語としない人たちの健康を守るため、今後必要となる能力だといえます。彼らを対象に言葉の壁を低くする方法である「やさしい日本語」の効果的な授業方法について調べました。具体的には、学生 80 人に授業を行い、前後でとったアンケートの回答内容を比較しました。アンケートで尋ねた質問は以下の 3 つです。

【質問１】日本語を母語としない人に、大切な情報を日本語で書いて伝えるためにはどのような工夫をしたらよいでしょうか。知っていることを書いて下さい。いくつ書いても構いません。
【質問２】例文を日本語を母語としない人にもわかるような日本語に書き換えて下さい。
【質問３】日本語を母語としない人とのコミュニケーションについて、あなたの感じていること、考えることを自由に書いて下さい。

質問１において「平易な言葉を使う」ことが大切であると回答した人が多くいました。しかし質問２では平易な言葉をあまりうまく使えていませんでした。日本語を母語としない人にとって何が平易な言葉なのか、日本語を母語とする学生自身だけでは判断が難しいのかもしれません。事前に文章を用意する時間的有用がある場合は、言葉の難しさを判断してくれるソフトウェアやウェブサイトなどのツールを利用してよりわかりやすい言葉をうまく選べるようにする工夫が考えられます。
また、質問３において「やさしい日本語は万能である」といった旨の回答が増えました。実際にはやさしい日本語は万能ではありません。適材適所のコミュニケーション方法があることを授業内容に含める必要があるかもしれません。

質問３より　感じていること、考えることの前後比較



松浦 未来，樋口 倫代．看護学生の日本語を母語としない人びとへ医療情報を伝達するための知識、書き換えスキルおよび彼らとのコミュニケーションについての認識．国際保健医療．2023；38（3）：81-92.

お問合せ先：名古屋市立大学看護学研究科 国際保健看護学 ncugch1@med.nagoya-cu.ac.jp

2021-2023年度の活動

《学術発表》

学術論文

- 松浦未来，荒川若葉，服部記奈，樋口倫代．日本語を母語としない人びとへ医療情報を伝達するための看護学生のスキルおよび知識：予備調査と試験的介入．国際保健医療. 2021; 36 (4): 181-194.
- Higuchi M, Endo M, and Yoshino A. Factors associated with access to health care among foreign residents living in Aichi Prefecture, Japan: secondary data analysis. International Journal for Equity in Health. 2021; 20 (1): 135. （本冊子p 2 で紹介）
- Yoshino A, Salonga R, and Higuchi M. Associations between social support and access to healthcare among Filipino women living in Japan. Nagoya Journal of Medical Science. 2021; 83 (3): 551-565. （本冊子p 3 で紹介）
- 松浦未来, 樋口倫代. 看護学生の日本語を母語としない人びとへ医療情報を伝達するための知識、書き換えスキルおよび彼らとのコミュニケーションについての認識. 国際保健医療. 2023; 38 (3): 81-92. （本冊子p 4 で紹介）
- 樋口倫代. 愛知県で生活する外国人の保健医療アクセスを考える. 社会医学研究. 2023; 40 (1): 64-69.

★ すべてオープンアクセスです。（5番目は現在未公開ですが、公開される予定です。）

学会発表

- Yoshino A, Higuchi M. Associations between social support and access to healthcare among Vietnamese international students in Japanese language schools in Aichi Prefecture. 52nd Asia Pacific Academic Consortium for Public Health Conference; 2021.10.27~28: Surabaya (Indonesia) (オンライン）.
- 水野玲奈, 伊藤優, 松岡亜美, 樋口倫代. 名古屋市内のベトナム人コミュニティのベトナム人における保険情報及び保健医療アクセス. 日本国際保健医療学会第40回西日本地方会; 2022年3月5日: 津市（オンライン）.
- 樋口倫代. 愛知県内の市町村による外国人住民への健康支援の状況. 日本国際保健医療学会第40回西日本地方会; 2022年3月5日: 津市（オンライン）.
- Takemura M, Higuchi M. The relationship between knowledge of COVID-19 and use of social media among Vietnamese/Nepalese students in Japanese language schools. 53rd Asia Pacific Academic Consortium for Public Health Conference; 2022.9.21~22: Manila (Philipine).
- 吉野亜沙子, 樋口倫代. 愛知県内の日本語学校で学ぶベトナム人女性留学生における保健医療アクセスの阻害要因. 第37回日本国際保健医療学会学術大会. 2022年11月19～20日. 愛知県長久手市
- 竹村まどか. 日本語学校に通うベトナム人・ネパール人留学生の、COVID-19への感染に対する認識とCOVID-19に関する知識との関連. 第37回日本国際保健医療学会学術大会; 2022年11月19~20日: 長久手市.
- 樋口倫代. 看護学部生らを対象とした「やさしい日本語」教育の試み. 日本国際保健医療学会第41回西日本地方会; 2023年3月4日: 長崎市.
- Arai J, Higuchi M. Associations Between Access to Health Care and Self-Rated Health among Participants in Community Based Japanese Classes in Aichi Prefecture. 54th Asia Pacific Academic Consortium for Public Health Conference; 2023.10.30~11.1: Kuching (Malaysia).
- 新井純子.愛知県内の地域日本語教室で学ぶ外国人住民における自治体ウェブサイトの多言語情報の認知と保健医療アクセスとの関連; グローバルヘルス合同大会2023. 2023年11月24日～26日: 東京都文京区.

- 佐藤由佳, 樋口倫代, 八田早恵子, 遠藤晋作, 上田敏丈. 外国人住民に対する保健情報の提供に関する支援者の課題の探索 ―慢性疾患患者へ看護を提供している看護師の一事例から― . 第42回日本国際保健医療学会西日本地方会; 2024年3月2日: 高知市.
- 竹村まどか, 樋口倫代. 移民に対する効果的な保健医療情報の提供方法についての文献検討. 第42回日本国際保健医療学会西日本地方会; 2024年3月2日: 高知市.
- Yoshino A, Salonga R, Higuchi M. Factors Associated With Social Support Among Filipino Women In Aichi, Japan. East Asian Forum of Nursing Scholars 2024; 2024.3.6~7: Hong Kong (China).

学位論文

- Yoshino A. Factors Associated with Access to Healthcare among Students at Japanese Language Schools: Studies in Aichi Prefecture. (PhD Thesis); 2023年3月. 名古屋市立大学.
- Takemura M. The relationship between Use of Social Media and Knowledge of COVID-19 among Vietnamese/Nepalese Students in Japanese Language Schools. (Master Thesis); 2023年3月. 名古屋市立大学.
- Arai J. Factors Associated with Access to Healthcare among Participants in Japanese Classes in Local Communities in Aichi, Japan. (Master Thesis); 2024年3月. 名古屋市立大学.

看護研究（学部生）

- 伊藤優, 松岡亜美,水野玲奈. 愛知県で生活するベトナム人における保健医療アクセスと新型コロナウィルス感染症.（看護研究）; 2021年12月.
- 田口真衣, 横山ひとみ. 愛知県内の病院のウェブサイトにおける外国人向け医療情報提供状況の現状と課題.（看護研究）2022年12月.

★ 学会発表内容なども、論文発表後ご報告していきます。現時点での調査結果などをお知りになりたい方はご連絡下さい。

《講師派遣など》

- 樋口倫代. 第41回「びわ湖国際医療フォーラム」指定講演. 2023年9月9日；大津コラボしが21（オンライン併用）
- 樋口倫代. JST共創の場形成支援プログラム「近未来こども環境デザイン拠点」第8回拠点コンソーシアムセミナー. 企画, 司会. 2023年9月14日；オンライン開催

《社会活動》

- 第3回「愛知県で生活する外国人の保健医療アクセスを考える」フォーラム開催 （公財）名古屋国際センター共催）. 2022年3月19日: 名古屋国際センター（オンライン併用）.
- 第4回「愛知県で生活する外国人の保健医療アクセスを考える」フォーラム開催 （公財）名古屋国際センター共催）. 2023年3月11日: 名古屋国際センター（オンライン併用）.
- 第5回「愛知県で生活する外国人の保健医療アクセスを考える」フォーラム開催 （公財）名古屋国際センター, 名古屋市立大学 近未来こども環境デザイン拠点 共催）. 2024年3月9日: 名古屋国際センター（オンライン併用）.
- 学校健康診断・健康教育. 2021年12月17日; ELCC国際こども学校.
- 学校健康診断・健康教育. 2023年2月12日; ELCC国際こども学校.
- 学校健康診断・健康教育. 2023年9月13日; ELCC国際こども学校.

★ 講師派遣、健康診断・相談会の依頼を承りますのでご連絡下さい。

《終了したプロジェクト》

- 科研費・基盤研究C（2019-2023年度）「日本で生活する外国人における健康資源へのアクセスの現状と影響要因」研究代表者：樋口倫代、課題番号：19K10563

みなさまにご協力、ご助言をいただき、以下の3つの調査からなる研究課題を無事終了しました。調査結果はこれまでのフォーラムや報告冊子でご報告してまいりました。一部論文発表済み、その他投稿中、投稿準備中です。

調査1：愛知県の市町村への郵送質問票調査

調査2：愛知県内のベトナム人コミュニティでの質問票調査

調査3：外国人住民への郵送質問票調査

★ 以下のURLに、課題の概要や実績が掲載されています。
https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-19K10563/

★ 最終報告書は以下をご覧下さい。
https://kaken.nii.ac.jp/ja/file/KAKENHI-PROJECT-19K10563/19K10563seika.pdf

《継続中のプロジェクト》

- 科研費・基盤研究B（2023-2027年度）「外国人住民における保健情報アクセスの背景およびアクセス向上のためのシステム開発」研究代表者：樋口倫代、課題番号：22H03319

上記課題の後続として、以下の4つの調査からなる研究課題が進行中です。調査結果は、フォーラムや報告冊子でみなさまにご報告するとともに、順次学会発表、論文していきます。

調査1：ライフステージに応じた保健情報提供に関する課題の探索

保健情報提供する保育者と慢性看護師を対象とした質的調査です。保育士４人と慢性疾患看護師５人への聞き取りが終了しました。現在聞き取りデータの書き起こし～分析中です。

調査2：看護学生におけるやさしい日本語の認知、知識およびスキルの測定と教育モデルの開発

看護学生らに「やさしい日本語」の教育を実施し、その前後 の知識とスキルを反復測定します。３学年でやさしい日本語の講義とその前後のデータ収集、入力が終了しました。最初に 実施した学年の前後比較は、論文発表済みです（本冊子4ページ）。

調査3：多言語保健情報へのアクセスと受入れの分析

外国人住民らを対象とした公的な多言語保健情報へのアクセスに関する質問票調査です。まず、当初予定していた結核のかわりにCOVID-19についての保健情報アクセスと知識について調べた類似の調査を、対象と規模を縮小して計画し、終了しました。学会発表の後、論文投稿中です。当初計画の調査は調査４と合わせて実施することとし、具体的な研究計画の作成に着手しています。

調査4：参加型保健情報発信システムの開発、活用と評価

参加型保健情報発信のためのオンラインサイトをソフトウェア開発会社に委託し、制作中です。このサイトを利用した当事者参加による「保健情報動画コンテスト」の実施を企画中です。

★ 以下のURLに、課題の概要や年度ごとの実績が掲載されています。
https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-22H03319/

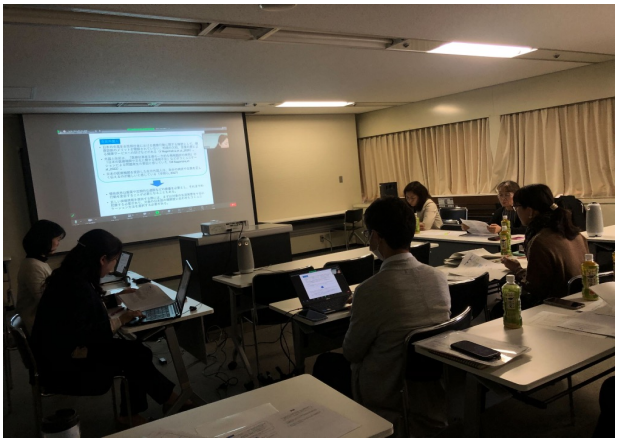
《その他》

- 公財）東京都つながり創生財団の「やさしい日本語の普及啓発」活動の一環として、取り組みについての取材を受けました。記事は2024年3月29日に同財団の「東京都多文化共生ポータルサイト」にアップされました。

★ 記事は以下をご覧下さい。
https://tabunka.tokyo-tsunagari.or.jp/yasanichi/jirei/2024/03/booklet_05.html

★ 「やさしい日本語リーフレット」にも要約記事があります。 （PDF版はこちら→）
https://tabunka.tokyo-tsunagari.or.jp/yasanichi/jirei/2024/04/booklet_11.html

第５回「愛知県で生活する外国人の保健医療アクセスを考える」フォーラムは、2024年3月9日にオンライン併用で開催しました。



第3回 2022年3月19日開催

第4回　2023年3月11日開催

第5回は、多文化共生ソーシャルワーカーの神田すみれ氏にファシリテーターを、共催である公財）名古屋国際センター事業課主査の加藤理絵氏、一色コスモスサポートの会（地域日本語教室）代表の平坂礼子氏、国立病院機構名古屋医療センター看護師長丹羽早苗氏の3名にコメントをお願いしました。

研究室から、地域日本語教室参加者にご協力いただいた調査、看護師にご協力いただいた調査を発表しました。

2024年度の第6回フォーラムは2025年3月9日（日）14時～を予定しています。詳細は、下記ウェブサイトやFBページ、大学の広報などを通じてお知らせします。

ご連絡お待ちしています！

＊ 看護学生が、日本語を母語としない人びとと円滑なコミュニケーションがとれるように、機械翻訳とやさしい日本語を併用したコミュニケーショントレーニングを予定しています。

→ 看護学生による日本語を母語としない人向けの健康啓発活動にご関心のあるグループの方はぜひご連絡下さい。

名古屋市立大学看護学研究科 国際保健看護学（葵校舎）
〒461-0004 名古屋市東区葵一丁目4番7号
電話　052-982-7358（直通）
Email　ncugch1@med.nagoya-cu.ac.jp
Website　https://ncugch.jp/
FB page　https://www.facebook.com/ncu.gch/